

2018年7月  
西日本豪雨水害物資支援活動報告（確定報）

支援物資（良品と判定したもの）	（20日）	（21日）	（22日）	（合計）
フェイスタオル類	1,346	978	1,149	3,473
バスタオル類	57	76	98	231
ハンドタオル類（含むハンカチ）	694	797	379	1,870
記帳者人数	79名	52名	56名	187名

このほか、未使用であるが、焼け、折れ、カビ、シミのあるものや、雑巾として加工してくださったものが多数あったが。これらは、適量をレジ袋に入れて段ボール箱に入れて「雑巾」として現地へ送り始めている。

仕分け後、良品を15号のビニール袋に入れて（おおむね平均8枚程度）＋小学校からのメッセージカードを入れて、ザマリンを印刷したシールで封印をして輸送用の箱に入れた。

箱数は7/22現在 50箱（1箱 平均15パック） 750パック を詰め合わせた。

土嚢袋 500枚入り 5袋（500×5）2500枚

土嚢袋・ガラ袋 1000枚（座間市）を中心に個人で10枚、20枚と提供してくださった。

カレンダー 多数（21日から受け付け中止した）

（企業関係が大量に提供してくださったので個人口についてはお断りをさせていただいた）

折から、倉敷市は、支援物資の要請を「TVを通じて市長が発言したために全国から物資が集中したことで現場が大混乱となって受け入れを一切停止してしまった。

さらに、内閣府は現地の要請を聞くことなくいわゆる「プッシュ方式」で大量の物資を送り込んだためにさらに輪をかけて混乱が続いている。

我々は、出来ることならば顔が見える距離で、このタオルセットを現地の方へお渡しできればと願い企画したが現段階では中断状況にある。

現在、フェイスブックを通じてネットワークを通じた形で、設住宅ができた段階で、たい焼きプロジェクト活動に合わせて現地へ入って被災者の方々へお渡ししたいと考えている。

カレンダーについては、現地の仮設住宅の建設状況に合わせて送り込を計画している。

#### 《送料協力金》

募金総額：1次分として 231,821円

現金は、ざま災害ボランティアネットワークの銀行口座へ仮入金している。

第二次の座間ハイツの活動での協力金は53,550円となり合計で285,371円である。

そのまま仮受として銀行へ預けてある。収支の精算が確定するまで支出は、ざま災害ボランティアネットワークの資金を以て立替し、確定時点で精算を予定している。

なお、JBU関連の送料については、災害救援ボランティア推進委員会が負担してくれることが決まっているが、さらにSLの被災地支援の資金で振替を調整中である。

2018/8/29 追記

7/21 - 07/22 JBU 関連の物資送り出終了。

本件に関して、土嚢袋は支援金で購入したが、公社SL災害ボランティアネットワークと相談した結果、SLの方の被災地支援金勘定へ振り替えてくれることになった。後日精算

7/31 知人の安達参加からFBでシェアしてくれた結果、国士舘大学のチームが西予市並びに倉敷市へ支援に入ることになり、荷物を委託した。結果、8/4西予市野村地区VCへお届けし近隣の方々へ配布されたとの報告があり、その後、倉敷市真備町でも配布して下さった。国士舘大学活動チームへ1万円を寄付する。

8/14 同じく安達さんの紹介で、文京区消防団員の進士さんが広島へ入るとの情報を得て荷物を委託わざわざ文京区から荷物を引き取りに来てくださった。これでタオル54箱中、30箱が被災地へ出た。そのほか雑巾の箱10箱は全て送り出すことができた。残っている分は9月の活動で直接搬入し配布を考えている。それまでに現地へ入るグループがあれば委託する。

なお、広島へ送られた物資は矢野東7丁目VCサテライトを通じて被災者へ配布されたとの報告がありました。

8/29 現在、お預かりしている支援金は28万5千円である。

FBを通じて支援グループに委託をお願いしています。

9/6 北海道胆振地方を震源とする地震が発生 震度7を記録するとの情報が出る。被害は広範囲に広がり札幌市清田などで液状化による被害甚大、続震が続く。

9/7 SL運営委員会にて「ざま災害ボランティアネットワーク」が提供した「土嚢袋」2000枚の代金については、公社SL災害ボランティアネットワークが負担してくれることになった。公社SL災害ボランティアネットワークへ請求38,880円(税込み)購入者へ返金。うち、18,880円は寄付としていただいた。

9/10 倉敷市社会福祉協議会へ9/22~9/24日までの「たい焼き活動」の活動場所について調整を行ってきたが、どうも先方の感じが、たい焼き=テキヤ との誤解があるようなのでこれ以上調整を続けてもらいが明かないので濱田が現地へ入って調整をすることとし9/14に日帰りで行うこととした。調整の結果、メールにて三役に承認を得た。これに要した費用は、送料協力金募金で賄うこととした。。

9/14 濱田は日帰りで岡山空港経由、レンタカーで倉敷災害ボランティアセンターへ移動、社協職員並びにピースボート職員上島氏、公文氏と面談。過去の私たちの活動内容について説明し、今回の活動の概要について説明。心の支援ということを理解していただき活動場所の調整の了承を得ることができた。受け入れ先は、後刻社協より連絡をいただくことになった。その際に、座間市民からのタオルパックの配付を行いたいとの話をして了承を得た。その後、倉敷市社協本部へ立ち寄りJBUの件でお世話になった課長に挨拶して、真備町へ向かうも、天皇皇后陛下の被災地訪問とぶつかり思うような通行が出来ずに断念して空港へ戻る。16:50岡山発、羽田 18:20着。座間着20:30

- 9/16 倉敷市写経関川様より連絡があり、22日～24日までの活動場所について調整が終わったのでとの情報を受ける。23日は真備町岡田地区の公民館分館、24日は真備町箭田地区の公民館分館で活動することとなった。共に、地区の災害救援ボランティアセンターサテライト及び被災者支援センターになっている。150名から200名程度が集まると思うとの話が合った。22日については、調整中である。二次案としては災害救援ボランティアセンターでの支援もあるが出来る限り被災者の近くでお願いする方向で調整中とのこと。ホテル確保。当面は5人分FB並びにネットで参加者を募集。
- 9/18 関川様から連絡。22日は、船穂町柳井原仮設住宅で初めての入居者同士の交流会が行われるので14時からここで活動をして欲しいとの連絡があった。大体、30名から50人程度が参加するとの話が合った。
- 9/19 FB並びにネットで参加者を募集。車両はレンタカーを予定。宮本さんへ予約を依頼。ダメもとで、座間市社会福祉協議会小林氏を通じて座間市社会福祉協議会の車両の借用を申請。倉敷社会福祉協議会へ災害従事車両無料証明書を請求。  
レンタカー会社へ借用車両のNOの事前確認をするも当日でなければ番号の確定は出来ないとのこと。最悪の場合高速代金も自腹の支払いを覚悟。
- 9/20 座間市社会福祉協議会より車両の貸し出しを承認する旨の連絡あり。  
座間市へ、災害従事車両高速無料通行証明書を申請。21日朝受領を予約。参加応募者ないのでホテル1部屋キャンセル。車両へ積載する荷物を積み込む。タオル段ボール15箱。  
材料(粉・餡子)  
参加者は、濱田夫婦、宮本、稲穂 稲穂さんは富士川SAで合流
- 9/21 以降 活動記録は宮本さんの記録をコピー
- 9/21 (金)
- 12:30 座間社協発
  - 13:20 橋口邸発 圏央厚木IC経由
  - 15:56 足柄SA発(昼食)
  - 16:41 富士川SA発(稲穂さん乗車)
  - 20:35 大津SA着(夕食)
  - 21:40 大津SA発  
北宝塚SA 給油(47.01L: ¥7,757)
  - 24:12 吉備SA着(休憩・仮眠)
- 9/22 (土)
- 07:15 吉備SA発  
玉島IC経由、倉敷VC →真備町・総社市巡回  
真備町柳井原仮設(TPJ)4キロ×38枚=150枚
  - 17:30 ホテル
- 9/23 (日)
- 09:10 ホテル発  
真備町岡田公民館(TPJ)15キロ×38=570枚
  - 17:15 ホテル
- 9/24 (月)

09 : 10 ホテル発  
真備町箭田公民館分館 (TPJ) →倉敷 VC 11 キロ×38=420 枚

16 : 30 ホテル

9/25 (火)

08 : 00 ホテル発  
玉島 IC 経由  
吉備 SA 給油 (38.30L : ¥6,281)

11 : 15 北宝塚 SA 休憩

14 : 25 岡崎 SA 発(昼食)

16 : 20 富士川 SA (稲穂さん下車)

16 : 54 足柄 SA 給油 (20.00L : ¥3,360)

19 : 00 橋口邸 (機材降し) 給油・洗車

20 : 00 座間社協着 車両返還

本活動の、燃料費は送料協力金より支出する。

2018/9/26 追記

9/26 座間市社会福祉協議会挨拶。幹部職員全員不在。小林課長へ概要を報告  
3階部屋に保管してあった、残余のタオルパック、カレンダーを倉敷市市民協働推進課、  
岡田分館、箭田分館へ発送。これら費用は送料協力金を支出する。それ以外の、材料費、宿  
泊費についてはざま災害ボランティアネットワークの「たいやきPJ 資金」より支出する。

9/27 現地より荷物が到着した旨の連絡があった。  
現在、座間市立西中学校から追加で集まったタオルが未整理で残されているのでこれを「タ  
オルパックにして岡田分館へ送る予定。この作業を以て送料協力員金の精算を行い、残余の  
金額は座間市社会福祉協議会を通じて共同募金会被災地義援金へ募金をすることを定例会  
で承認を受ける。

東日本災害の経験から、カレンダーの収集も行っていた。しかし、これは現地の状況を見た  
上で配布するものであることから、三次発送時点でも、現地の様子がわからなかったので持  
参しないで現地に入った。カレンダーの話をする「ぜひ欲しい」とのアンサーを受けてピ  
ンポイントで送り込みを行い喜ばれた。水ですべてが流されるということは近隣全てのカ  
レンダーが水に流されてしまい地域のどこにもない状況であった。今年いっぱい、座間市  
などの住所が入ったカレンダーが倉敷に掲げられることになると思う。

10/5 収支計算を行う。

ざま災害ボランティアネットワークより仮払 (活動資金) を戻し入れする。

JBU 支援に関わる費用は可能な限り「災害救援ボランティア推進委員会」へお願いして負  
担をお願いした。倉敷活動事前現地調整費及び、活動活動に要した車両燃料費は送料協力金  
からの出費とした。9月21日～9月25日までの活動に要した車両は座間市社会福祉協議  
会の協力をいただきました。

また、往復高速道路通行料は、倉敷社会福祉協議会へ災害支援活動従事者としての承認を受  
け座間市より通行証明書を発行していただきました。

その結果、送料協力金の残金は 72,550 円となりました。

この金額は、座間市社会福祉協議会を通じて共同募金会へ義援金として寄付します。

本活動を通じて感じたことは、座間市の市民から提供を頂いたタオル詰め合わせセットが現地で非常に好意的に受け入れられた。これは、東日本大震災の時の経験で、物資配布は「ワンタッチ」で一人分が取れないと支援物資がかき回されてめちゃくちゃになることからこの方式をとった。また、その時には時間的余裕がなかったので心配りが足りないことが見えて来た。ただ、タオルパックをお渡しするのではなく、中に励ましのメッセージカードを入れたら元気付けることができるのではないかと考えて今回は、夏休み直前だったが小学校の協力をいただき、3年生以上の児童からメッセージカードを書いてもらい、パックの中に平均3枚程度入れて、ザマリンのシールで封印をして配布しました。少なくとも、伊予市、西予市、広島市でも反響があったとの報告がありました。

忙しい中にも関わらず、市内小学校の対応に感謝いたします。このような、被災者を想う心は、社会と共にある（公共）という意識を高め、現実の防災教育に繋がるものと考えています。

私たちが真備町に入って、直接施設管理者の方に贈呈をさせていただき、目の前でお渡しすると「こんな素晴らしいメッセージがあってありがたい」と言って泣き崩れる方や、車の中でじっと読んでくださっている姿を見て、こんなささやかなことでも元気を出す力があることを体感でき我々もうれしかったです。災害からもう2か月が経過するも、まだまだ給食支援を受けざるを得ない地域もあり、その後もいくつもの台風がこの地域を通過するのを見ると心配な気持ちで過ごしている現在である。

関係機関のご協力をいただき今回の活動ができたことに感謝するとともに、近々首都圏を襲う大規模災害時に「お互いさま」の心を持って住み合うことが大切なことが理解できました。一方では、民意とかけ離れたところでの自治体の合併の弊害が見えてきた場面にも遭遇しました。

しかし、今回の活動拠点である、倉敷市災害救援災害救援ボランティアセンターの運営は、ピースボートの支援によって非常にきめ細やかな運営ができていたことに驚きました。できれば行政職員や座間市社会福祉協議会の職員も見学なり短期での運営に参加するなどの体験を積むことが必要ではないかと感じました。応援いただいた皆様に感謝を申し上げます。

ざま災害ボランティアネットワークは、地震、水害、さらに台風と連続して起きる最近の災害動向をきっちりと見つめて、「生き残らなければ何も始まらない」ということを市民の皆さんに浸透させて初動の3日間は「自助が全てである」という市民としての責務を遂行できる座間市にしたいと思います。

特に、北海道で発生した地震による電源喪失は、ざま災害ボランティアネットワークが4年前から取り組んで来た「マイ発電所プロジェクト」の考え方が誤りでなかったことを証明できたと考えています。生活に必要な最低限の電気も「自助」できれば、わざわざ過酷な環境である避難所へ行くことはないと考えます。「災害は忘れたころにやってくる」という状況ではなく「災害は忘れないうちにやってくる」という思いで減災行動と災害対応行動が出来るように訴えてゆきたいと思います。

以上